

分科会 D

「幼・小・中の組織的な教育活動の改善と、魅力的な園・校づくりを目指して」

コーディネーター： 鈴木正敏（兵庫教育大）

コメンテーター： 伊藤静香（帝京平成大）

佐木みどり・西川正晃・足立 望・テイラー クレア（岐聖大）

この分科会の趣旨

平成 29 年 3 月に改訂された幼稚園教育要領・小学校学習指導要領・中学校学習指導要領では、それぞれの前の段階での保育・教育の成果を踏まえて教育課程の編成を行い、教育活動の改善を行うことが求められている。今後は、中学校が小学校での学びの経緯を把握することや、小学校が幼稚園・保育所・こども園での育ちの姿を見とることが必要となってくる。

こうした園校種間の連携接続は、これまで以上に重要なポイントとして強調されており、各地方自治体ごとにも大きな課題として捉えられている。保幼小連携については、昨年の発表にあった横浜市や姫路市などの市町村レベルの取り組みを始め、福井県や埼玉県、神奈川県などの県レベルに至るまで、それぞれの地域で積極的にカリキュラムづくりが行われたり、平成 27 年には国立教育政策研究所・教育課程研究センターから『スタートカリキュラムスタートブック』が刊行されるなど、全国的に広がりを見せている。

小中連携については、各地で義務教育学校や小学校連携型中学校、小学校併設型中学校などが設立されているほか、小中連携教育として、一体化された学校ではないところも、積極的にカリキュラムにおける連携や、小中の交流活動などが行われている。その中でも、平成 20 年要領から導入された外国語活動については、学習意欲や積極性などに効果が見られるなど小学校から中学校への学習の成果が認められた一方で、文字学習や文法構造の学習には課題が見られるなどして、より体系的な学習が求められるようになった。そこで平成 29 年の改訂で外国語科となり、教科化することによって、さらなる充実が図られると同時に、大きな課題として与えられているといえよう。

そこで本分科会では、第 1 日目の内容として、岐阜聖徳学園大学附属幼稚園・小学校・中学校の先生方によるご発表により、「幼稚園のスタート（アプローチ）カリキュラムの実際（附属幼）」、「学園の人材を駆使した多様な英語学習の試み（附属小・中）」、「幼小連携の現実と課題（附属幼・小）」といったテーマで討議を進めていきたい。また、2 日目の内容として、コーディネーターの鈴木による「各地の幼小連携の現実と課題」の提案、ならびに明海大学の大庭先生による「幼・小・中連携の現状と課題～英語教育の観点から～」というテーマで「幼・小・中連携の鍵は何か」についてお話をいただく予定である。

開催校の先生方による公開保育・授業と実践発表、そして参加者の方々からの積極的なご意見をもとに、今回の要領改訂の中心的課題である幼・小・中における連携接続による一貫した改革について議論を深めていきたい。